

【日本の大学】第 79 回——佐賀大学：「志」持ち挑戦、未来を創造

佐賀大学は九州・佐賀県の県庁所在地・佐賀市に本部を置く国立大学である。1949 年に新制の大学として発足し、その後 1976 年に設置された国立佐賀医科大学を 2003 年に統合した。現在は、6 学部、6 大学院研究科を有し、学部学生は約 5800 名、大学院学生約 790 名が在籍している。

2020 年 4 月に策定した「佐賀大学のこれから—ビジョン 2030」では、10 年後の大学像として「佐賀大学に関わる人々が誇れる大学」「佐賀大学で学びたいと選ばれる大学」「地域社会から期待、信頼される大学」を目指すとしている。また、大学憲章では、「これまでに培った文、教、経、医、工、農等の諸分野にわたる教育研究を礎にし、豊かな自然溢れる風土や諸国との交流を通して育んできた独自の文化や伝統を背景に、地域とともに未来に向けて発展し続ける大学を目指す」と宣言。この大学憲章を実現するため、学生を含む大学の構成員すべてが「志」を持って挑戦し、未来（これから）を創造する、と謳っている。



本庄キャンパス

農、経、理工学部、次々誕生

以下、佐賀大学のホームページなどから、大学の歴史や現況をみていこう。

1949 年に発足した佐賀大学は、戦前からの旧制佐賀高等学校、佐賀師範学校、佐賀青年

師範学校を包括してスタートした。当初は、文理学部と教育学部の2学部であり、附属施設として図書館、附属小学校、同中学校が設置された。教育学部は、1953年に高校の美術教員を養成する特別教科（美術・工芸）教員養成課程を導入した。教育学部はその後、1996年に教養部が廃止されたことに伴う改組で文化教育学部となった。

1955年には文理学部にあった農学科を独立させて、農学部を新設、新しい学科として、農学専攻科、農業土木学科、農芸化学科、園芸学科などを設置した。

文理学部は1966年に組織改正が実施され、経済学部、理工学部、および教養部となった。理工学部の中には、工業化学科、土木工学科、生産機械工学科、電子工学科、建設工学科、情報科学科などが次々に設置された。

大学院も農学研究科（修士課程）が1970年、工学研究科（修士課程）が1975年に設置されている。



佐賀大学美術館

文化教育学部は、2016年に改組が実施され、教育学部と芸術地域デザイン学部に分かれた。この際、大学院の改組も行われ、教育学研究科、経済学研究科を廃止して、学校教育学研究科、地域デザイン研究科となった。

再発足した教育学部では、幼児・児童・生徒の心身の発達を長期的な視点で見据えながら、現代社会の変化に伴う様々な教育課題に応えることができる教員の養成を目指している。コースは「幼小連携教育コース」と「小中連携教育コース」の二つがある。「幼小コース」

では、子供の生活・発達・学習について、心理、教育・保育、特別支援教育の視点から専門的知識や技能を学ぶ。また、これらの知識や技能をもとに子供のニーズや課題を把握できる教員を養成する。「幼小発達教育」と「特別支援教育」の2専攻がある。「小中コース」では、小学校、中学校の9年間を一体的にとらえ、義務教育期間全体を見据えて教育実践を行える能力を持った教員を養成する。専攻は「初等教育主免」と「中等教育主免」の二つがある。

芸術地域デザイン学部は、芸術を通して地域創生に貢献する人材の養成を行っている。芸術を、作品の創作やモノのデザインのことを指すだけではなく、美術館や博物館における専門的な仕事や文化財の保護も範疇に含んでいる。現代では、まちづくりや地域おこしを担う自治体、マスコミ、TV局、企業、販売、観光などの場面や職種で、芸術的な支援が求められており、学部ではそのような場で必要とされる芸術的な手法や感性を磨いていく。学べる専門分野は、芸術の表現や理論はもちろん、歴史、国際関係、考古学、地理学、都市デザイン、異文化コミュニケーションなど人文科学、社会科学の各分野にわたっている。学科は芸術表現コースと地域デザインコースがある。



有田エントランスギャラリー（有田キャンパス）

佐賀医科大と統合

医学部の前身である佐賀医科大学が開学したのは1976年で、1学科目（生物学）を開設し、事務局が佐賀大学内に置かれた。78年には8講座（解剖学、生理学、生化学、病理学、微生物学、内科学、精神医学、外科学）、9学科目となった。その後も、講座が追加されて81年には18講座となったほか、医学部付属病院が設置された。大学院医学研究科（博士課程）も1984年に置かれ、1993年には看護学科が設置されるなど拡張が続いた。

2003年には、佐賀大学と佐賀医科大学が統合し、新「佐賀大学」が誕生した。佐賀医科大学の建学の精神と伝統を受け継ぐとともに、時代にマッチした新しい教育方法を取り入れ、豊かな感性と高度な専門知識・技術を兼ね備えた良き医療職者を育成することを目標としている。学科は医学科（6年制）と看護科（4年制）からなっており、医学科は基礎医学系、臨床医学系合わせて21講座、看護学科は統合基礎看護学と生涯発達看護学の2講座で構成されている。



看護実習室

農学部は1988年にそれまでの農学科、園芸学科、農業土木学科、農芸化学科の4学科を改め、生物生産学科と応用生物科学科の2学科体制となり、2006年には、応用生物科学科、

生物環境科学科、生命機能科学科の3学科に改組している。さらに2019年からは、生物資源科学科の1学科となり、新入生は、共通の専門的な基礎知識を身に付けたあと、四つのコースである生物科学、食資源環境科学、生命機能科学、国際・地域マネジメントの中から自分の専門分野を選択することになっている。理念として「社会的要請に応えるために、私たちの生活にとって有益な生物の生産・利用と環境保全に関わる総合科学である農学の発展にさらに貢献するとともに、人類の繁栄に貢献するために必要な、豊かな教養と深い専門知識を備えた人材を養成する」ことを掲げている。



複合環境制御室

経済学部は1966年に経済学科1科で発足した後、管理科学科、経営学科を設置、1998年には3学科を改組して、経済システム課程（国際経済社会コース、総合政策コース）、経営法律課程（企業経営コース、法務管理コース）の2課程4コースを設置。2013年からは、経済学科、経営学科、経済法学科の3学科となっている。変動する社会環境の課題を分析するため、経済学、経営学、法学を駆使して21世紀を支える人材を育成する。

教員1人当たり10人以下の学生数となるゼミナールをほぼ4年間にわたって実施し、教員と様々な専門分野の問題について身近で議論を交わしあい、実践的な問題解決能力を身に付けていく。

理工学部は、7学科体制となっていたが、2019年に理工学科1学科とし、その下に12のコースに再編した。コースは、数理サイエンス、知能情報システム工学、情報ネットワーク工学、生命化学、応用化学、物理学、機械エネルギー工学、メカニカルデザイン、電気エネルギー工学、電子デバイス工学、都市基盤工学、建築環境デザインの12プログラム。再編の狙いは、産業構造や生活環境のグローバル化、科学技術の細分化・複雑化・短命化、AIの急速な進展などが相次ぐ現代社会と未来において、その変化に柔軟に対応できる幅広い教養と理工学的基礎力を土台とする科学・技術の専門的素養を持つ人材を育成することを目指している。

これらを実現するために、1年次は前学期で数学や理科などの理工学の基礎となる科目について全員同じ科目を受講。後学期では数学・化学・物理学のコース別に分かれ、2年次には12の専門コースへの配属を行う。2年次、3年次では各専門分野の基礎及び研究手法を学び4年次の卒業研究に備える。

大学では、専門教育を担う各学部とは別に、学部の枠を超えた教養教育の教養課程について、全学の学生を対象に「全学教育機構」を2011年に立ち上げた。学生が卒業までに身に着ける能力目標である「佐賀大学学士力」を強化するのが狙い。

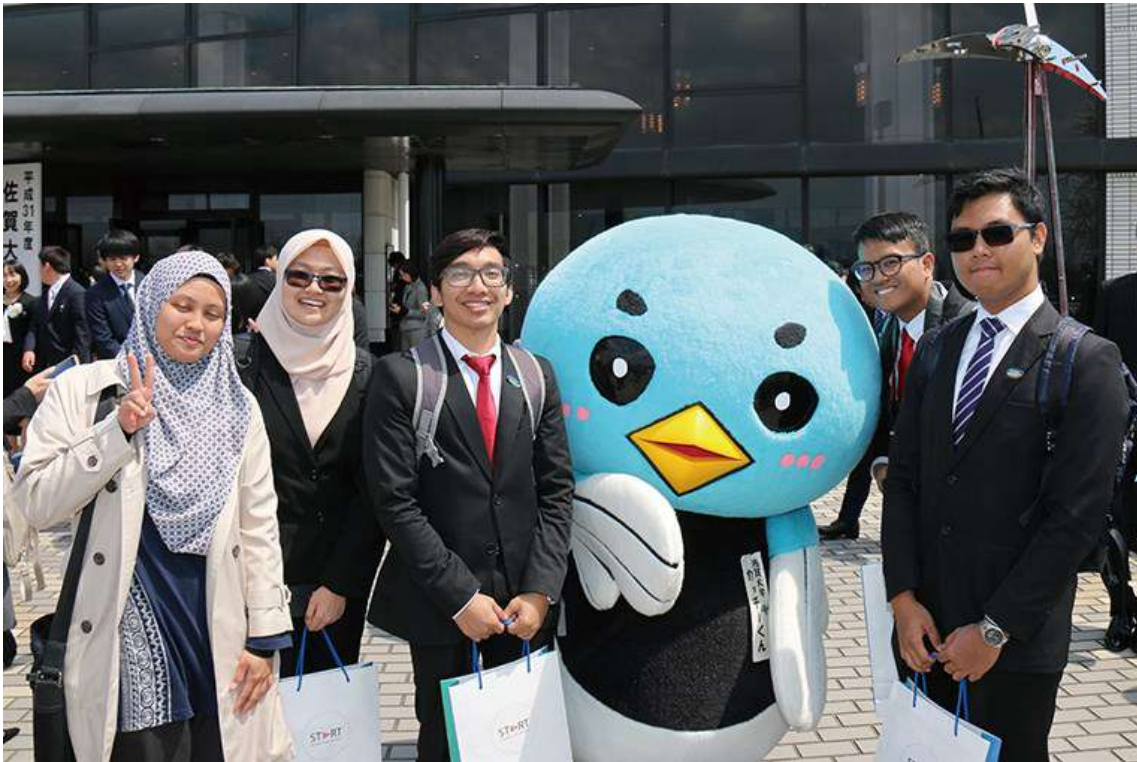


海洋エネルギー研究を戦略的に推進

大学ではまた、海洋エネルギーに関する科学技術を戦略的に推進する国際的な先導的中核研究拠点（共同利用・共同研究拠点）として、海洋エネルギー研究所を設けている。海洋エネルギーには海洋温度差発電、波力発電、潮流発電、洋上風力発電、海洋温度差発電、海洋からの希少金属等の回収、海洋深層水など、今後、化石燃料に代わる環境にやさしいエネルギーとしての利用推進が期待されている。海洋温度差発電に関しては、既に1973年から取り組んでおり、現在は、海洋熱エネルギー部門、海洋流体エネルギー部門、学際部門の3部門を設けて、研究に取り組んでいる。

国際交流の面では、2011年度に国際交流センターを発足させ、外国人留学生の受け入れと日本人学生の海外留学の推進、研究者の交流や国際共同研究の推進を図っている。学術交流協定などに基づく国際交流ネットワークの形成、学生交流、研究者交流、地域国際連携、留学生の住環境整備などを行っている。また、2021年1月には、新たに国際行動指針を策定した。これは、新型コロナウイルス感染症の影響によるニューノーマル時代の到来に際し、地域とともに未来に向けて発展し続ける大学を目指して、受け入れ及び派遣の双方向の交流で地域の国際化を推進することを目指したものだ。

外国の大学等との学術交流協定は、2022年9月現在、74の大学35の大学部局間の計109と結んでいる。外国人学生に対しては、私費留学生、3年次編入、研究生、学術交換協定を結んだ大学間の交換留学プログラム、さらに日本語・日本文化研修留学生などの仕組みがある。



カッチーくんと記念撮影

外国人留学生に対しては、大学での手続きや日常生活、病気になったときの対処など必要な情報を網羅した「外国人留学生ガイドブック」を用意している。新入留学生には各人にチューターがついて生活をサポートし、進学や日常生活の面で悩みを抱えたとき、適切な指導助言を与え、解決に向けた支援を行う体制も整えている。言葉の問題では、特色のある日本語コースを提供。初級前半から上級まで五つのレベルに分かれて授業が実施されている。住居面では、大学の国際交流会館（留学生寮）が用意されている。（キャンパスから徒歩3分、单身室、夫婦室、家族室がある）

学生数は、学部が5716（うち女性2491）名、大学院が796（うち女性224）名。教員数は729名（うち女性164名）である。（以上2022年5月現在）

学長は兒玉浩明氏である。佐賀大学理学部卒、同理工学研究科修士課程修了、九州大学大学院理学研究科博士課程修了（理学博士）。1988年、佐賀大学理工学部助手で入り、助教授、準教授、教授などを経て、2015年佐賀大学学長補佐、2017年大学理事、2019年から現職。

日文：滝川 進

写真：佐賀大学 HP&FaceBook